

広島県 介護施設 SAFE協議会 スタート

～ 広島県で働くすべての方の健康と安全のために～



この協議会は、広島県内のリーディングカンパニー、業界団体、災害防止団体、行政機関を構成員として、各業界における労働災害防止に関する情報共有、好事例の水平展開、啓発活動などを通じて、労働災害の減少を図ることを目的としています。

広島県 介護施設 SAFE協議会ってなに！？

そもそもSAFEとは？

従業員の幸せのための安全アクションを推進する活動体の名称です。

Safer Action For Employees = S A F E
(セイファー アクション フォー エンプロイーズ セイフ)

本事業の背景 / 目的

近年、労働災害、特に、日常生活でも発生し得る転倒や腰痛などの災害が増加しています。背景として、産業構造の変化、成長産業における人手不足、働き方の多様化、顧客第一の文化、従業員の安全を守る視点の欠如、対策に取り組むメリットが見えないなど様々な問題があり、これまでの取組だけではこれらの災害を減少させることが難しくなっています。

働く人だけでなく、家族、事業者、地域のすべての人の幸せのために、労働災害を改めて社会問題としてとらえ、顧客も含めたステークホルダー（事業の関係者）全員で解決策を考え、取り組んで行くため、厚生労働省が立ち上げた活動体であり、全国の都道府県でも順次展開されています。

広島県介護施設SAFE協議会とは？

協議会の目的

令和4年10月に広島県介護施設SAFE協議会を立ち上げ、同月11日に第1回となる協議会を開催しました。

この協議会は、広島県内の介護施設で働く人やその家族、事業者、地域のすべての人の幸せのために、労働災害を減少させるべく、様々な立場から今ある問題点や解決に向けた取組などを協議していくものです。

また、協議会で収集した情報や検討内容については、広島県内全域で水平展開を図っていただくため、関係者に広く周知を図っていきます。

協議会メンバー

企業：社会福祉法人三篠会 / 社会福祉法人IGL学園福祉会 /
社会福祉法人広島県同胞援護財団

業界団体：広島県老人福祉施設連盟 / 公益社団法人広島市老人福祉施設連盟 /
広島県老人保健施設協議会 / 一般社団法人広島県介護福祉士会

防災団体等：公益財団法人介護労働安定センター広島支部 /
中央労働災害防止協会中国四国安全衛生サービスセンター

行政機関：広島県健康福祉局医療介護基盤課 / 広島労働局労働基準部健康安全課

主な活動内容

令和5年2月末現在 【順不同】

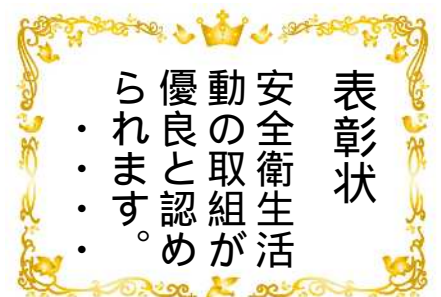
- メンバーの取組に関する情報交換
- 行動災害防止対策や健康づくりなどの専門家による講演
- メンバー間の相互視察
- 行動災害防止に関する啓発資料の作成など

表彰(アワード)制度について

アワードへの応募

厚生労働省が行うもので、安全衛生活動に関して、SAFEコンソーシアムの加盟メンバーから、労働者の健康や安全の確保のための取組事例を募り、優良と認められた企業、団体、事業場等を顕彰する制度です。

SAFEコンソーシアムについて、詳しくは最終面をご覧ください。



広島県内の介護施設における安全衛生活動の取組事例の紹介

事例1 『ノーリフティングケア推進を目的としたライセンス制度の導入』 社会福祉法人三篠会

(1) 取組内容

三篠会では、8年前から「持ち上げない、抱え上げない介護」の実践としてノーリフティングケアを導入しているが、更なる推進と介護の魅力と専門性をより明確化するために、独自の制度「姿勢・移乗マイスター制度」を創設している。技術の取得状況や指導力に応じてジュニアマイスター、マイスター、シニアマイスターの称号を付与しており、中には法人内にとどまらず、外部から講師依頼もあり、福祉・介護業界におけるノーリフティングケア推進の一翼を担っている。

(2) 取組効果

ノーリフティングケア導入時は外部講師による指導がメインであったが、マイスターが伝達方法を含めた技術を習得することにより、内部講師による指導が可能になってきている。指導体制の確立により、法人内の各事業所におけるノーリフティングケアの標準化を図ることができつつある。

(3) 取組工夫など

対外的な関わりも想定してマイスターにはメールアドレスや名刺を付与している。また、技術取得に対する評価として手当を支給している。



事例2 『介護技術指導プロジェクトチームの発足』 社会福祉法人IGL学園福祉会

(1) 取組内容

ノーリフトケアに組織的に取り組むため、プロジェクトチームを立ち上げ、介護技術の高い職員が各職員に指導を行い、その指導を受けた職員が指導員として活躍することで、職員に幅広くノーリフトケアを広めた。

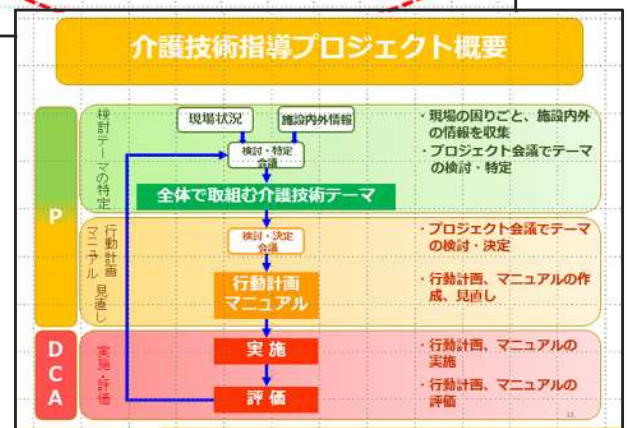
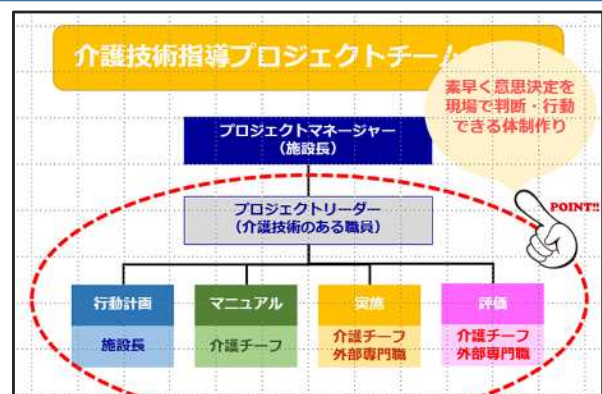
(2) 取組効果

取組を行った施設では、身体的負担を感じる職員の割合が87.5%から12.5%に減少した。

また平均的離職率は20.0%から7.3%に減少した。

(3) 取組工夫など

取組を進めるためには、担当者の役割を明確にすること、指導者が職員に研修するためのマニュアルの作成が大切である。



事例3 『床走行式リフトの導入』

社会福祉法人 広島県同胞援護財団

(1) 取組内容

職員一人でも使用でき、移動可能な「床走行式リフト」を導入した。職員からも好評で、現在では、リフトはなくてはならないものとなっている。

(2) 取組効果

応援職員を呼ぶ手間、待ち時間がなくなり、スムーズな移乗が可能となった。
移乗時の腰部への負担が軽減した。
正しい使用方法を行えば、どの職員が使用しても、同じケアを行うことが可能となった。

(3) 取組工夫など

購入に職場定着支援助成金を活用した。
販売店からデモ機を借り、実際に試験的に使用して職員の意見を聞いて選定した。
機器は導入するだけでは効果は得られず、利用定着させることが大切。使用方法の研修、マニュアル作成など、職員説明は丁寧に行った。

出典：PARAMOUNT BED
<https://www.paramount.co.jp/>



SAFEコンソーシアムとは？

設立の目的

増加傾向にある労働災害（特に、日常生活でも発生し得る転倒や腰痛などの災害）の問題を『自分ごと』としてとらえ、顧客や消費者も含めたステークホルダー全員で解決を図っていくため、趣旨に賛同した企業、団体等で構成した共同体のこと。

加盟のメリット

1. ロゴマークの使用やアワードによる安全衛生への取組のPR
2. 加盟メンバー間での取組事例の共有等による安全衛生水準の向上、労働災害損失の減少
3. 加盟メンバー間の労働災害防止・健康増進事業連携マッチング

加盟要件

「SAFEコンソーシアム」の趣旨に賛同し、コンソーシアム加盟の意思を示した団体がご加盟いただけます（加盟は無料です）。

広島県内の加盟メンバー

令和5年2月末日現在 12事業者

SAFEコンソーシアムに関して、加盟方法、加盟メンバー、表彰制度（アワード）など、詳細について知りたい方は「SAFEコンソーシアム「ポータルサイト」をご覧ください。

<https://safeconsortium.mhlw.go.jp/>

